

導入事例

Case Study

株式会社 アシスト・ワン 様

安定性とオンプレミスからの移行しやすさを評価し
SaaS のインフラに ASPIRE を継続採用



株式会社 アシスト・ワン
本 社：神奈川県小田原市寿町 2-10-10 2F
設 立：2003 年
U R L：https://www.assist-one.jp/
従業員数：19 名（2019 年 10 月現在）

導入サービス



「IT のプロデューサー」を標榜（ひょうぼう）し企業向けに Web アプリケーション、システム開発、インフラ・サーバ構築などを提供する株式会社アシスト・ワンは、サーバ機器の管理を不要にするクラウド型 Web アプリケーションのインフラとして「ホワイトクラウド ASPIRE」（以下、ASPIRE）を継続的に採用しています。クラウドサービスの基本性能である高い安定性はもちろんのこと、顧客企業のオンプレミスシステムをクラウド環境に移行する作業の容易性も評価しています。

課題と導入効果

課題

オンプレミス時代は、ハードウェア障害に起因するサービス停止が起こるたびに、担当チームが現地に出向き対応していました。

効果

ASPIRE の採用後、サーバ機器の障害に対応する必要はなくなり、人的リソースをより革新的な開発案件に振り分けています。

課題

独自仕様や固有の技術用語を使っているクラウドサービスでは、オンプレミス環境の移行に追加的な学習コストが発生します。

効果

ASPIRE はネットワークおよび UNIX/Linux の標準的な知識さえあれば問題なくシステム移行が可能で、技術者に過大な負荷をかけません。

導入の経緯

同社が ASPIRE の前身である「ホワイトクラウド VMware vCloud Datacenter Service」(以下 vCDC) と出会ったのは 2011 年。顧客企業からタブレット端末を使った営業支援システムの開発を依頼された時でした。顧客から指定された複数の国内クラウドベンダを比較評価していくうち、ソフトバンクの提供する vCDC だけがメンテナンス時でもサービス停止をしない仕様であったため、仮想サーバを構築するインフラとして vCDC、タブレット端末にはソフトバンクが提供する iPad を採用したといいます。

2011 年当時、同社の提供する Web アプリケーションは主にホスティングサービスの VPS (バーチャル・プライベート・サーバ:物理サーバ上に仮想サーバを複数稼働させ、専用サーバよりも安価に提供するサービス) を利用していましたが、物理サーバの障害によるサービス停止が頭の痛い課題でした。また、同社が提供している顧客のオンプレ

ミスシステムの保守運用サービスでは、サーバ機器の故障以外にも落雷による電源断やヒューマンエラーに起因するサーバ停止などがたびたび発生し、保守担当チームはその都度客先へ出向いて対応する必要がありました。

初めて ASPIRE (当時は vCDC) を導入したシステムでは、当時利用していた別のホスティングサービスとは違い、割り当てられたリソース (CPU、MEMORY、DISK) を自由に配分できたので、複数台のインスタンス (サーバ) を柔軟かつ効率よく運用できるようになったといいます。高い信頼性を評価した同社では、それ以降の Web アプリケーションは vCDC / ASPIRE で構築するようになります。同社の主力サービスである業務支援システム「Taskware」は、一貫して ASPIRE 上で稼働しています。

ここ数年、海外のクラウドサービスを導入する企業は増加してい

ますが、同社は海外クラウドサービスのコスト面での優位性は認めつつも、基幹システムには一貫して ASPIRE を採用し、海外クラウドサービスはバックアップサーバに限定しています。その理由のひとつは、技術者にとっての使いやすさにあるといいます。

技術者の間では UNIX/Linux の技術を良い意味で「枯れている」と称しますが、この「枯れた」UNIX/Linux の標準的な知識さえ持っていれば ASPIRE は使いこなせます。これは顧客のオンプレミスシステムをクラウドに移行する場面で大きな優位性となります。海外クラウドサービスでは、聞いたことのないベンダ固有の技術用語や固有コマンドなどがあり、これらを理解する学習コストは無視できない負担になるといいます。既存の知識で素早くサーバ移行が可能になることも、ASPIRE を使い続けるひとつの理由だといいます。

お客様の声

初めて ASPIRE を導入した案件では、300 ~ 400 人の営業担当者が iPad を携帯しリアルタイムで営業支援システムにアクセスする環境でした。システム停止がただちに売り上げに影響を及ぼすシビアな条件でしたので、多少コスト高になってもシステムが止まらないことを優先する旨をお客さまに納得いただきました。このシステムで ASPIRE の安定性を実証できたのは、当社にとって大変貴重な体験でした。また、導入検討時にソフトバンクのエンジニアから技術的な情報を提供してもらえたのも非常に好印象でした。vCDC から ASPIRE へ切り替わってコストは抑えつつ、処理能力は向上したので、ASPIRE の現状には満足しています (中込氏)。

クラウドサービスを導入したことで、

サーバ環境におけるトラブルが激減し、サーバの検証、構築、運用などにも時間を取られなくなった分、より先進的なサービス開発に時間を使えるようになったのは、エンジニアにとって嬉しいことです。ソフトバンクとの付き合いは ASPIRE をきっかけに始まりましたが、現在は Google Cloud Platform™ (以下 GCP™) を導入検討しています。特に「BigQuery™」に代表される分析機能は、ぜひとも当社の「Taskware」に拡張機能として取り込みたいと考え、ソフトバンクの技術セミナーにも参加しました。「BigQuery™」やマシンラーニングといった先進的なテクノロジーは GCP™ から取り込み、数年先までを想定した安定稼働を重視する基幹システムは引き続き ASPIRE という使い分けを想定しています (大野氏)。



株式会社 アシスト・ワン
常務取締役
中込 琢磨 氏



株式会社 アシスト・ワン
クラウドソリューション事業部
カスタマーソリューション
大野 直樹 氏

※パンフレット記載内容は、2019 年 10 月現在のものです。Google Cloud Platform™、GCP™ および BigQuery™ は Google LLC の商標です。